

## [003]アジア総合政策センター紀要表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/14087>

---

出版情報：九州大学アジア総合政策センター紀要. 3, 2009-03-31. 九州大学アジア総合政策センター  
バージョン：  
権利関係：



# 年報 (2007年度)

## Kyushu University Asia Center

1. 九州大学アジア総合政策センター構成員
2. 国際共同研究「日本の労働市場開放をめぐる国際社会学的研究  
— 介護・看護分野を中心に」
3. 対外イベント項目一覧
4. メールマガジンの発行
5. 九州大学アジア理解講座 実施報告
6. 九州大学アジア塾 実施報告
7. Soaked in Asia (SIA = サイア) 報告  
— アジアの心の情報を発信する
8. 九大アジア叢書発行
9. アジア総合政策センター交流支援事業



## 1. 九州大学アジア総合政策センター構成員 (2008年3月31日現在)

## 委員長 / センター長事務取扱

・柳原 正治  
(理事・副学長)

副センター長  
・坪田 邦夫

## アジア現代文化研究部門

## 専任教員

## 特任教授

・高樹のぶ子  
教授  
・大野 俊

## 複担教員

・有馬 學  
(比較社会文化研究院・教授)  
・森川 哲雄  
(比較社会文化研究院・教授)

## 協力教員

・安立 清史  
(人間環境学研究院・准教授)  
・源田 悦夫  
(芸術工学研究院・教授)  
・曹 美庚  
(言語文化研究院・准教授)  
・丸山マサ美  
(医学研究院・講師)  
・森田 昌嗣  
(芸術工学研究院・教授)

## [学外]

・小川 全夫  
(山口県立大学・教授)  
・杉谷 篤  
(藤田保健衛生大学・教授)  
・ピンングトン ノエル ジョン  
(アリゾナ大学・准教授)  
・丸山 孝一  
(福岡女学院大学・教授)

## アジア社会開発研究部門

## 専任教員

## 准教授

・小川 玲子

## 複担教員

・甲斐 諭  
(農学研究院・教授)  
・出口 敦  
(人間環境学研究院・教授)  
・原 寿郎  
(医学研究院・教授)

## 協力教員

・李 一清  
(言語文化研究院・准教授)  
・稲葉美由紀  
(言語文化研究院・准教授)  
・大谷 順子  
(言語文化研究院・准教授)  
・大杉 卓三  
(比較社会文化研究院・助教)  
・緒方 一夫  
(熱帯農学研究センター・教授)  
・小松 太郎  
(言語文化研究院・准教授)  
・平野 裕子  
(医学研究院・准教授)  
・南 博文  
(人間環境学研究院・教授)

アジア社会科学研究部門

専任教員

教授

- ・坪田 邦夫
- ・国吉 澄夫

複担教員

- ・久野 国夫  
(経済学研究院・教授)

協力教員

- ・吾郷 眞一  
(法学研究院・教授)
- ・安達 明久  
(産学連携センター・特任教授)
- ・八谷まち子  
(法学研究院・准教授)
- ・フェニック マーク  
(法学研究院・准教授)
- ・星野 裕志  
(経済学研究院・教授)

[学外]

- ・永池 克明  
(久留米大学・教授)

事務スタッフ

氏名	所属
玉好 さやか	アジア総合政策センター事務室
徳田 涼子	アジア総合政策センター事務室

## 2. 日本の労働市場開放をめぐる国際社会学的研究——介護・看護分野を中心に

### [趣旨]

世界の貿易自由化が2国間交渉を中心に進むなか、日本政府はアジア諸国を中心に2国間の経済連携協定(EPA)を次々と締結している。フィリピンとインドネシアの政府との間では、EPAに「人の移動」条項を含め、両国から看護師と介護福祉士の候補を日本に受け入れることを決めた。タイやベトナム両政府との間でも、ケア労働者を受け入れる方向で協議を進めている。2008年にはインドネシアから200人余りの候補第一陣が来日し、研修を開始した。こうした医療・福祉の分野での外国人への本格的門戸開放は、日本では初めての出来事である。しかし、「異文化間ケア」の導入は諸外国での事例を見ても様々な問題の発生が予想され、諸問題の克服と受入制度の改善が急がれている。

こうした問題意識のもと、九州大学アジア総合政策センターは2007年4月に「日本の労働市場開放をめぐる国際社会学的研究——介護・看護分野を中心に」を開始した。研究メンバーは、センターの専任教員のほか、医学研究院、人間環境学研究院、言語文化研究院の学内教員、さらには国立フィリピン大学、国立インドネシア大学など送出国の教員にも参加してもらった。送出国にも恩恵をもたらす互恵的な人の移動のあり方を探るためである。

研究資金としては、学内競争資金である「九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト(通称:P&P)」を獲得。2007年度から09年度までの3カ年計画で、社会学、文化人類学、保健学、看護学、福祉学などを専門とする九州大教員の人的資源を活用しながら、学際研究を進めている。EPAのスキームで来日のインドネシア人・フィリピン人研修生を受け入れる病院や介護施設、すでに在日外国人が勤務の病院や介護施設のほか、少子高齢化の進展に伴って多数の外国人ケアワーカーを受け入れている台湾、欧米諸国などの実態も調査している。最終的には、21世紀日本の移民政策に寄与する提言をまとめ、国内外の教育の場でも研究成果を活用する。本研究の進展は、九州大とアジア中核大学との研究・教育連携の強化にも寄与するだろう。

### [研究メンバー]

大野 俊 (アジア総合政策センター長・教授) = 研究代表

平野 (小原) 裕子 (医学研究院准教授 / アジア総合政策センター協力教員)

国吉澄夫 (アジア総合政策センター教授)

小川玲子 (アジア総合政策センター准教授)

安立清史 (人間環境学研究院准教授 / アジア総合政策センター協力教員)

大谷順子 (大阪大学大学院人間科学研究科准教授 / アジア総合政策センター協力教員)

曹美庚 (言語文化研究院・韓国研究センター准教授、2008年度よりのメンバー)

小川全夫 (山口県立大大学院健康福祉学研究科教授 / アジア総合政策センター協力教員)

川口貞親 (産業医科大学産業保健学部教授)

マリア・ロザリオ・ピケロ = パレスカス [M. Rosario Piquero-Ballescás] (フィリピン大学セブ校社会科学科教授)

バクティアル・アラム [Bachtiar Alam] (インドネシア大学研究・公共本部長)

キッティ・プラシルツック [Kitti Prasirtsuk] (タイ・タマサート大学政治学部講師、2007年度のメンバー)

### [2007年度の研究概要]

#### (1) 日本国内での調査と政策提言

厚生労働省、外務省といったEPA関連の監督官庁での聞き取りを実施。福岡の企業が実施中の在日外国人対象のヘルパー養成講座やフィリピン人ホームヘルパーの受入施設を視察し、問題点を探った。また、異文化間メンタルヘルスの問題の先取りケースになっている在日コリアン高齢者のメンタ



2008年3月8日、福岡国際ホールで開かれた国際シンポジウム「グローバル化する看護と介護 医療・福祉分野への外国人労働者参入をめぐる」の会場風景

ルヘルスに関するアンケート調査を福岡で実施した。

アジア総合政策センターがコーディネートした2007年9月の「福岡アジア国際会議」では分科会「拡大するグローバル労働市場」にアジア5カ国の移民労働問題の専門家を招き、各国の労働者受け入れと送り出しの問題点などを報告してもらった。

全国1,600以上の中規模以上の病院を対象に外国人看護師受け入れに関する国内初のアンケート調査を実施し、3割強から回答を得た。そのうち46%が外国人看護師採用を希望するなどとの調査結果は、後述する国際ワークショップで発表され、朝日新聞が朝刊1面トップ記事（2008年3月10日付）で報道するなど、大きな社会的反響を呼んだ。

福岡入国管理局は2008年1月30日、入管行政の見直しのため、有識者の意見聴取会を開催した。学者の代表として招かれた研究代表の大野は、国家試験合格者に対する永住権付とはじめ市民権とのパッケージ化を提言した。この意見は、読売新聞の連載記事「開国 介護現場」（同年3月16日付朝刊）などでも紹介された。

### (2) 日本・フィリピン間の移動に関する調査

フィリピンから看護師・介護士候補が2007年度中に日本にやってくる見通しだったことから、日比間のケアワーカーの移動の研究に重点を置いた。計6人の研究メンバーが時期を違え、マニラ、ダバオなどの主要都市を中心に、監督官庁、介護士養成学校、大学看護学部、日本人高齢者介護施設、公立老人ホームなどで実態調査にあたった。

平野裕子准教授らは、日比間のEPAスキームなどの問題点を探るため、マニラ首都圏と地方都市の計9ヶ所で教員、学生約70人を対象に、EPAスキームに関する集団面接調査を実施した。その研究成果の一部を朝日新聞に寄稿し、朝刊オピニオン面「私の視点」（2008年1月11日付）に「外国人看護師、受け入れ方法の再検討を」という見出しの記事として掲載された。また、フィリピンの看護カリキュラムなどに関する資料を現地で入手して翻訳し、日本との比較分析を行った。

さらに、日本への送り出し有力校であるダバオのミンダナオ国際大学との共催で、大野と小川全夫教授を演者とする「介護シンポジウム」を地元で開催。地元の関係者ら約150人の参席を得て情報や意見交換の場とした。

### (3) その他のアジア諸国での調査

タイとインドネシアでは、タマサート大学やインドネシア大学の教員の協力を得ながら、看護・介

---

護事情に関する予備的調査を実施。現地の日本大使館、医療・福祉関係者からも聞き取りをした。

16万人以上の外国人ケアワーカーを受け入れている台湾では、台北と高雄で、政府の政策責任者、自治体関係者、介護施設経営者、外国人介護労働者ら30人以上からの聞き取り調査を実施し、問題点の掌握に努めた。

#### (4) 国際シンポジウムと国際ワークショップの開催

2008年3月8日、日本と東南アジア諸国間のケアワーカーの移動に焦点をあてた国際シンポジウム「グローバル化する看護と介護—医療・福祉分野への外国人労働者参入をめぐる」(日英同時通訳)を福岡市で主催した。日本、フィリピン、インドネシア各政府の政策責任者を初めて一堂に集め、台湾の政策責任者も招いて、送出国と受入国の政策課題を報告してもらった。さらに、この問題に関わる実務家5人が報告、200人余の聴衆から質問や意見を出してもらい、政策当局者との対話を演出した。ここでの議論や提言は、朝日新聞、西日本新聞などのメディア報道を通して社会に発信された。

このシンポと連動する形で、翌日、国際ワークショップ「越境ケア・スタディーズ (Transnational Care Studies)」を主催。日本、フィリピン、インドネシア、米国、台湾の大学研究者計17名(うち九大教員・大学院生5名)がケアワーカーの国際移動を主なテーマとして英語で研究報告をし、研究者の国際ネットワーク作りとしても活用された。

(文責・大野 俊)

### 3. 2007年度対外イベント項目一覧

2007年4月～2008年3月の期間に、アジア総合政策センターが主催、共催ないしは後援を行なったアジア関連公開講座、セミナー等、対外的なイベントは以下の通りである。

開催日	イ ベ ン ト 名	備 考
2007/4/6	講演会「忘れられたエスニック・ジャパニーズ — アジア・太平洋の場合 —」	主催：九州日仏学館 場所：九州日仏学館多目的ホール アジア総合政策センター共催
2007/4/24	アジア理解講座 第1回シルクロード地域における国際協力・ 社会開発シリーズ「アフガニスタンの平和と 教育」	主催：アジア総合政策センター 場所：アクロス福岡セミナー室
2007/4/26	九州・中国ビジネス研究会 第3回 「事例研究：サントリー・烏龍茶の上海進出」	主催：ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡607会議室 アジア総合政策センター共催
2007/5/24	九州・中国ビジネス研究会 第4回 「中国ハイテク産業動向 — 中国独自技術と「自主 創新」を巡る動き」、「在中、日系電機メーカーの事 例から浮び上がる現時点の特色と今後の事業展開」	主催：ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡601会議室 アジア総合政策センター共催
2007/5/27	アジア理解講座 シンポジウム「臓器売買が問いかけるもの — アジアの苦悩 —」	主催：アジア総合政策センター 後援：日本生命倫理学会 場所：九州大学医学部百年講堂中ホール
2007/6/15	九州大学第4回アジア塾 「どこへ行く日本の食と農 — アジアに活路は あるか — 農業白書担当者との対話」	共催：アジア総合政策センター・農林水産省 場所：九州大学国際ホール
2007/6/19	アジア理解講座 第2回シルクロード地域における国際協力・ 社会開発シリーズ「中央アジア・ウズベキス タンにおける国際協力と社会開発」	主催：アジア総合政策センター 場所：九州大学国際ホール
2007/6/29	九州・中国ビジネス研究会 第5回 「日本における外国人労働と中国人研修生」	主催：ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡605会議室 アジア総合政策センター共催
2007/7/6	九州大学ビジネススクール 学内公開講義 「中国における事業経営の経験から — 経済発 展、社会の変化、経営の現地化、CSR」	主催：九州大学ビジネススクール 場所：アクロス福岡セミナー室 担当教員：アジア総合政策センター 国吉澄夫教授
2007/7/13	中国セミナー（福岡） 「転換期にある中国ビジネス・投資環境、その 今後を展望して」	主催：三井住友銀行 場所：(財)福岡県中小企業振興センター大ホール アジア総合政策センター共催
2007/7/27	九州・中国ビジネス研究会 第6回 「日本と中国の150年」	主催：ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：電気ビルスカイルーム アジア総合政策センター共催
2007/8/24	九州・中国ビジネス研究会 第7回 「チャイナリスクと対中投資」	主催：ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡608会議室 アジア総合政策センター共催
2007/9/5 6	第7回福岡アジア国際会議 「グローバル化の進展と変容するアジア」	主催：福岡県・福岡市・福岡アジア国際会 議実行委員会 アジア総合政策センターが協力・コーディネーション

開催日	イ ベ ント 名	備 考
2007/9/11 14	「東南アジア及び東アジアにおける土地利用の持続性と農林地のもつ多面的機能」	主催：九州大学大学院農学研究院、九州大学熱帯農学研究センター、ホーエンハイム大学（ドイツ） 場所：九州大学箱崎キャンパス アジア総合政策センター共催
2007/9/20	九州・中国ビジネス研究会 第8回 「中国における財務戦略」	主催：ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡6階 608会議室 アジア総合政策センター共催
2007/9/22	第4回 SIA-DAY 「高樹のぶ子と浸るマレーシア！」	主催：アジア総合政策センター 場所：アクロス福岡円形ホール
2007/10/19	九州大学第5回アジア塾 九州・中国ビジネス研究会第9回 中国ビジネスセミナー「ヤオハン中国の成功と失敗から学ぶもの ― オンリーワンをめざして・77歳からの再出発」	共催：アジア総合政策センター・ICABE 「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡大会議室
2007/11/5	福岡アジアビジネス研究会 発足1周年記念講演会	主催：福岡アジアビジネス研究会 場所：よみうりプラザホール アジア総合政策センター後援
2007/11/8 13	第3回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム	主催：九州大学大学院比較社会文化研究院 場所：九州大学西新プラザほか アジア総合政策センター後援
2007/11/15 16	第2回 韓中日国際学術シンポジウム 「東アジアにおける『文化アイデンティティ』の形成と3カ国連携強化の方策を探る」	主催：韓国東国大 共催：アジア総合政策センター、中国社会科学院 場所：ソウル・東国大 芸術劇場
2007/11/26	第2回九州大学保健学国際フォーラム2007 「アジアにおける保健学教育と研究」	主催：九州大学大学院医学研究院保健学部門 場所：九州大学医学部百年講堂 アジア総合政策センター後援
2007/11/27	アジア理解講座 デニス・アンコヴィック氏 講演会「アジアの経済統合：中国経済の展望と日米のビジネスチャンスと課題」	主催：アジア総合政策センター・九州大学大学院言語文化研究院 共催：福岡アメリカン・センター (在福岡アメリカ領事館広報部) 場所：福岡アメリカン・センター
2007/11/28	アジア太平洋都市連携専門家会議 公開シンポジウム 「躍動するアジアと国際都市連携」	主催：福岡アジア都市研究所、福岡市 場所：アクロス福岡国際会議場 アジア総合政策センター後援
2007/11/29	九州・中国ビジネス研究会 第10回「地方からの日中環境協力」	主催：ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡 608会議室 アジア総合政策センター共催
2007/12/7 8	アジア遠隔医療シンポジウム	主催：九州大学病院光学医療診察部、医療情報部、日本学術振興会「アジア科学技術コミュニティ形成戦略」 場所：九州大学医学部百年講堂、コラボステーション1 アジア総合政策センター後援
2007/12/11 14	ワークショップ「メコン地域における総合地域社会開発 ― 農村工業化及び異業種ネットワークを通じた地域開発」	主催：アジア生産性機構（APO） 場所：九州大学国際ホール アジア総合政策センター共催

開催日	イ ベ ン ト 名	備 考
2007/12/19	アジア理解講座 第3回シルクロード地域における国際協力・ 社会開発シリーズ「激動する現代中国の流動 人口と社会政策」	主催：アジア総合政策センター 場所：九州大学国際ホール
2007/12/21	九州・中国ビジネス研究会 第11回 「アジア・中国・九州の自動車産業」	主催：ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡 607会議室 アジア総合政策センター共催
2007/12/26	アジア理解講座 第4回シルクロード地域における国際協力・ 社会開発シリーズ「新たな世代の育成に挑む 中央アジア タジキスタン」	主催：アジア総合政策センター 場所：九州大学 六本松キャンパス 510教室
2008/1/24	九州・中国ビジネス研究会 第12回 「中国の流通開放と実務上の留意点」	ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡 607会議室 アジア総合政策センター共催
2008/1/28	福岡アジア都市研究所セミナー 第4回 「高齢者の住みやすい地域コミュニティを考える」	福岡アジア都市研究所 場所：アクロス福岡 国際会議場 アジア総合政策センター後援
2008/2/21	九州・中国ビジネス研究会 第13回 「中国新労働契約法」	主催：ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡 607会議室 アジア総合政策センター共催
2008/3/8	国際シンポジウム 「グローバル化する看護と介護 ― 医療・福祉 分野への外国人労働者参入をめぐる ―」	主催：アジア総合政策センター 後援：福岡県、福岡市 場所：福岡国際ホール 大ホール
2008/3/9	国際ワークショップ「越境ケア・スタディーズ」 (Transnational Care Studies)	主催：アジア総合政策センター 場所：九州大学西新プラザ 大会議室
2008/3/10	NPO 法人アジア・エイジング・ビジネスセ ンター設立記念 国際シンポジウム 「高齢化の大波を乗り切る法：協働と挑戦」	主催：アジア・エイジング・ビジネスセ ンター (AABC) 場所：アイランドシティ福岡ビジネス創造 センターホール アジア総合政策センター共催
2008/3/18	世界戦略的フードサイエンス教育 平成19年度 国際シンポジウム	九州大学大学院生物資源環境学府 アジア総合政策センター共催
2008/3/22	第5回 SIA-DAY 「高樹のぶ子と浸る上海！」	主催：アジア総合政策センター 場所：アクロス福岡円形ホール
2008/3/25	九州・中国ビジネス研究会 第14回 「台湾経済と台湾からの中国ビジネスの現状」	主催：ICABE「九州・中国ビジネス研究会」 場所：アクロス福岡 607会議室 アジア総合政策センター共催

## 4. メールマガジンの発行

アジア総合政策センターでは、「アジアセンター通信」として、2007年4月から2008年3月まで以下の「メールマガジン」を発行してきた。詳細はホームページを参照。

Vol.	タ イ ト ル	発行日
07 01	九州大学アジア理解講座 第1回シルクロード地域における国際協力・社会開発シリーズ「アフガニスタンの平和と教育」開催	2007/04/10
07 02	九州大学アジア理解講座 シンポジウム「臓器売買が問いかけるもの ― アジアの苦悩 ―」開催	2007/05/01
07 03	九州大学第4回アジア塾「どこへ行く日本の食と農 ― アジアに活路はあるか ― 農業白書担当者との対話」開催	2007/05/29
07 04	九州大学アジア理解講座 第2回シルクロード地域における国際協力・社会開発シリーズ「中央アジア・ウズベキスタンにおける国際協力と社会開発」開催	2007/05/29
07 05	アジア総合政策センター 平成19年度共催・後援およびアジアとの交流支援事業募集(学内向け)	2007/06/27
07 06	【新刊のお知らせ】九大アジア叢書8『国際保健政策からみた中国 ― 政策実施の現場から ―』	2007/06/27
07 07	高樹のぶ子氏『WEB SIA』オープンのお知らせ	2007/07/24
07 08	研究室紹介41「中・近世の朝鮮をめぐる東アジアの交流」人文科学研究院・森平雅彦准教授	2007/08/09
07 09	第7回福岡アジア国際会議開催のお知らせ	2007/08/14
07 10	「第4回 SIA DAY 高樹のぶ子と浸るマレーシア!」開催	2007/08/22
07 11	第7回福岡アジア国際会議開催のお知らせ<パネルディスカッション詳細>	2007/08/29
07 12	九州大学第5回アジア塾「ヤオハン中国の成功と失敗から学ぶもの ― オンリーワンをめざして・77歳からの再出発 ―」開催	2007/09/18
07 13	「第4回 SIA DAY 高樹のぶ子と浸るマレーシア!」開催報告	2007/10/05
07 14	【学内向け】アジア総合政策センター平成19年度共催・後援およびアジアとの交流支援事業 第2回募集	2007/10/05
07 15	第2回九州大学保健学国際フォーラム2007「アジアにおける保健学教育と研究」開催	2007/10/10
07 16	九州大学アジア理解講座「アジアの経済統合：中国経済の展望と日米のビジネスチャンスと課題」開催	2007/11/08
07 17	韓中日国際学術シンポジウム「東アジアにおける『文化アイデンティティ』の形成と3カ国連携強化の方策を探る」開催	2007/11/09
07 18	九州大学アジア理解講座 第3回シルクロード地域における国際協力・社会開発シリーズ「激動する現代中国の流動人口と社会政策」開催	2007/11/22
07 19	「アジア遠隔医療シンポジウム」のご案内	2007/12/04
07 20	九州大学アジア理解講座 第4回シルクロード地域における国際協力・社会開発シリーズ「新たな世代の育成に挑む 中央アジア タジキスタン」開催	2007/12/12
07 21	福岡アジア都市研究所セミナー「高齢者の住みやすい地域コミュニティを考える」開催	2007/12/27
07 22	【学内向け】アジア総合政策センター平成19年度共催・後援およびアジアとの交流支援事業 第3回募集	2008/01/15
07 23	看護・介護のグローバル化をめぐる国際シンポジウムおよび国際ワークショップ開催のお知らせ	2008/02/14
07 24	「第5回 SIA DAY 高樹のぶ子と浸る上海!」開催	2008/02/26
07 25	「世界戦略的フードサイエンス教育」平成19年度国際シンポジウム開催のお知らせ	2008/02/29
07 26	アジアン・エイジング・ビジネスセンター設立記念 国際シンポジウム開催	2008/03/03
07 27	九州大学アジア理解講座 第5回シルクロード地域における国際協力・社会開発シリーズ「飛躍する資源大国 中央アジア カザフスタン」開催	2008/03/28

## 5. 九州大学アジア理解講座 実施報告

アジア総合政策センターではダイナミックに変貌するアジアに対する理解を深める目的で市民向けの講座を定期的で開催している。2007年度は以下の講座を開催した。なお、講演者、コメンテーター等の所属・職名は各講座開催当時のものである。

### 1) 第1回シルクロード地域における国際協力・社会開発シリーズ

#### 「アフガニスタンの平和と教育」

日時：2007年4月24日（火） 18：30～20：30

会場：アクロス福岡 セミナー室2

#### プログラム

##### 講演者

- ・小松 太郎（九州大学大学院言語文化研究院准教授 / アジア総合政策センター協力教員）
- ・丸山智恵子（在カザフスタン JICA / 日本センター業務調整員（元 JICA アフガニスタン））

##### コメンテーター

- ・小川 玲子（九州大学アジア総合政策センター准教授）

開会の挨拶：山下 邦明（九州大学大学院言語文化研究院院長）

〔司会〕大谷 順子（九州大学大学院言語文化研究院准教授 / アジア総合政策センター協力教員）

#### 概要

九州大学アジア理解講座、第1回はシルクロード地域における国際協力・社会開発シリーズの第1回は「アフガニスタンの平和と教育」をテーマに開催された。

小松太郎氏（九州大学）によると、アフガニスタンの女性に対する教育の遅れは深刻で、就学率は男子の半分以上である。その背景には20年を超える戦乱による混乱に加え、貧困や衛生面の問題、イスラム教による女性の修学への影響、女性教師の不足といった状況が複雑に絡みっている。

女性を取り巻く厳しい境遇について丸山智恵子氏（国際協力機構：JICA）はアフガニスタンでの女性の若年結婚について言及した。アフガニスタンでは女性の多くは16、17歳で結婚するため、妊婦の死亡率は高い。加えて、小川玲子氏（九州大学）からは女性への暴力が顕在化しにくい社会体質が指摘された。

アフガニスタンという国が世間の注目を受けることになったのは、9.11以後である。それまで、アフガニスタンは忘れ去られてきた。小川氏は、忘却と無関心の結果として今のアフガニスタンがあることを指摘した。

参加人数：62名

## 2) シンポジウム「臓器売買が問いかけるもの — アジアの苦悩 —」

日時：2007年5月27日（日） 10：00～17：30

場所：九州大学医学部百年講堂中ホール

### プログラム

基調講演：粟屋 剛（岡山大学教授・生命倫理）「今なぜ、臓器売買シンポジウムか？」

< 第1部 フィリピンの「臓器売買」の制度化をめぐる >

- ・エンリケ・オナ（フィリピン国立腎臓・移植研究所所長）
- ・レオナルド・デ・カストロ（フィリピン大学教授・生命倫理）
- ・島菌 洋介（オックスフォード大学院生・医療人類学）

コメンテーター：大野 俊（九州大学アジア総合政策センター教授）

< 第2部 アジアの臓器市場と生命倫理 >

- ・ファイボール・ジトプラパイ（タイ移植学会会長）
- ・スシル・クマール・ヴァルマ（インド最高裁弁護士）
- ・今井 竜也（金沢大学客員研究員・生命倫理）

コメンテーター：倉持 武（松本歯科大学教授・生命倫理）

< 第3部 臓器売買に対する世界的視点と日本の課題 >

- ・オリバー・レーチ（ドイツ、岡山大学客員研究員・生命倫理）
- ・杉谷 篤（九州大学病院准教授・移植外科）

コメンテーター：霜田 求（大阪大学准教授・医療倫理）

< 総合討論 >

- ・コメンテーター：位田 隆一（京都大学教授・国際法、生命倫理）
- 虫明 茂（就実大学教授・哲学）

【総合司会】坪田 邦夫（九州大学アジア総合政策センター教授）

大林 雅之（京都工芸繊維大学教授・生命倫理）

【司会進行】丸山マサ美（九州大学医学部保健学科講師）

### 概要

2007年5月27日、九州大学医学部百年講堂にて、アジア理解講座の一環として「シンポジウム 臓器売買が問いかけるもの — アジアの苦悩 —」が開催された。これは日本で最初の臓器売買シンポジウムであった。報告者は日本から4名、フィリピンから2名、インド、タイ、ドイツから各1名であった。一般からの参加者は報道関係者も含めて約120名であった。

シンポジウムでは、とくにフィリピン、インド、タイの臓器移植及び臓器売買の現状と問題点、及び、臓器売買一般論（倫理的、法的、社会的問題）について活発な討議が行われた。具体的な問題に結論が出せた訳ではないが、「臓器売買は人間の尊厳に反する」との一言で切って捨てることのできないアジアの現実 — まさに苦悩 — が浮き彫りになった。

参加人数：125名

### 3) 第2回シルクロード地域における国際協力・社会開発シリーズ

#### 「中央アジア・ウズベキスタンにおける国際協力と社会開発」

日時：2007年6月19日（火） 18：30～20：45

会場：九州大学国際ホール

#### プログラム

##### 講演

- ・田邊 秀樹 (JICA 九州国際センター業務第一チーム主任 / 元 JICA ウズベキスタン事務所)
- ・山本 賢一 (JBIC 開発第4部第2班課長)
- ・ポスティル恭子 (国連開発計画：UNDP)
- ・河野明日香 (ウズベキスタン国立タシケント教育大学研究員 / 九州大学大学院博士課程)
- ・ディルショット・イスマイロフ (九州大学大学院法学府アジア比較政治行政コース (CSPA) 修士課程)
- ・ダブロン・ベクチャノフ (九州大学大学院法学府アジア比較政治行政コース (CSPA) 修士課程)
- ・ナルギツザ・ジュラボエバ (ウズベキスタン国連常駐代表事務所調整官補佐 / 九州大学大学院法学府アジア比較政治行政コース (CSPA) 卒業生)

コメンテーター：八谷まち子 (九州大学大学院法学研究院准教授)

【司会】大谷 順子 (九州大学大学院言語文化研究院准教授 / アジア総合政策センター協力教員)

#### 概要

アジア理解講座「国際協力・社会開発シリーズ」の第2回は「中央アジア・ウズベキスタンにおける国際協力と社会開発」をテーマに開催された。

最初に田邊秀樹氏 (国際協力機構：JICA) から、中央アジアとウズベキスタンについて基礎情報の整理と JICA の活動の現状について、続いて山本賢一氏 (国際協力銀行：JBIC — 中央アジア担当) からは JBIC と国際援助機関の中央アジアとウズベキスタンでの取り組みと戦略について講演が行われた。

続いては、ポスティル恭子氏 (国連開発計画：UNDP)、ナルギツザ・ジュラボエバ氏 (ウズベキスタン国連常駐代表事務所)、河野明日香氏 (九州大学大学院・ウズベキスタン国立タシケント教育大学) から講師からウズベキスタンについて多様な側面からの講演を得た。加えて、九州大学大学院に在学中のディルショット・イスマイロフ氏とダブロン・ベクチャノフ氏からはウズベキスタンの伝統と文化についての報告がなされた。最後に、コメンテーターの八谷まち子氏 (九州大学大学院) により、ウズベキスタンでの留学生への面接や九州大学での実際の受け入れ体験を交えたコメントをいただき閉会となった。

参加人数：50名

---

#### 4) 「アジアの経済統合：中国経済の展望と日米のビジネスチャンスと課題」

日時：2007年11月27日（火） 18：30～20：00

会場：福岡アメリカン・センター

##### プログラム

###### 講演

- ・デニス・アンコヴィック（弁護士、国際ビジネスコンサルタント）

###### コメンテーター

- ・国吉 澄夫（九州大学アジア総合政策センター教授）

###### 司会

- ・坪田 邦夫（九州大学アジア総合政策センター教授）

##### 概要

本講座は、急発展を続ける中国とのビジネスにどう取り組みばよいかを最新の情報を交えて紹介するため、2007年11月27日、福岡アメリカンセンターとの共催で開催された。参加者はビジネスマン、行政担当者など約100名であった。メインゲストでアジアビジネスに詳しい米国人弁護士デニス・アンコヴィック氏によると、中国ビジネスは拡大を続け今後とも大きな伸びが期待されるものの、それに伴って中国企業の対応が急速に変化しつつあるという。日本の中小企業が資金や技術提携を試みても相手にされないか、利用されるだけで終わるか、あるいは逆に買収されてしまうといった例を挙げ、用意周到に進出することや欧米企業と組んで対応するなどをアドバイスした。日本企業で中国での長い経験がある当センターの国吉教授は、アンコヴィック氏の指摘するような厳しい実情はあるものの、日本企業は幾分違った対応でうまくビジネスを進めているケースもあると指摘し、会場参加者も交えて活発な議論が交わされた。

参加人数：103名

---

## 5) 第3回シルクロード地域における国際協力・社会開発シリーズ

### 「激動する現代中国の流動人口と社会政策」

日時：2007年12月19日（水） 18：30～20：30

会場：九州大学国際ホール

### プログラム

#### 講演

- ・大谷 順子（九州大学大学院言語文化研究院准教授 / アジア総合政策センター協力教員）
- ・藤谷 浩至（JICA 国際協力総合研修所調査役）
- ・李 秉勤（ロンドン経済政治大学院講師）
- ・リズワン・アブリミティ（九州大学高等教育開発推進センター）

〔司会〕大杉 卓三（九州大学大学院比較社会文化研究院助教 / アジア総合政策センター協力教員）

### 概要

アジア理解講座「国際協力・社会開発シリーズ」の第3回は中国をテーマに開催された。

大谷順子氏（九州大学）は、「国際保健政策から見た中国」と題して世界銀行と世界保健機関（WHO）職員として中国で保健開発の分野に従事した視点から講演した。主な演題は中国の人口高齢化、人口政策の社会的影響、流動人口問題、国内の格差、都市籍と農村籍の格差を人間開発指標、国連ミレニアム開発目標（MDGs）の状況で、特に新疆ウイグル自治区、甘粛省、陝西省などでの状況について詳しい解説がなされた。引き続き、JICA 国際協力総合研修所調査役の藤谷浩至氏は「中国における社会セクターでの開発援助・国際協力——西部地区 / 西北部への協力を中心に——」と題して、西部大開発政策を論じ、特にJICA の新疆ウイグル自治区や甘粛省など中西部地域でのプロジェクトを取り上げて紹介した。次に、ロンドン経済政治大学院講師である李秉勤氏が「中国の流動人口と住居政策」と題して流動人口の住まい事情を説明し、特に天津の出稼ぎ労働者を対象とした調査の結果を紹介した。最後に、九州大学高等教育開発推進センターのリズワン・アブリミティ氏（新疆ウイグル出身）が「中国における新疆への移住とウイグル人の文化・教育」として漢族移住によるウイグル人の文化・教育への影響などを紹介した。

参加人数：51名

---

## 6) 第4回シルクロード地域における国際協力・社会開発シリーズ

### 「新たな世代の育成に挑む 中央アジア タジキスタン」

日時：2007年12月26日（水） 18：30～20：30

会場：九州大学 六本松キャンパス510教室

#### プログラム

##### 講演

- ・ 空尾 雪絵（国連児童基金：UNICEF タジキスタン代表）
- ・ 菊池 康子（日本赤十字社 事業局 国際部 国際救援課）
- ・ 大谷 順子（九州大学大学院言語文化研究院准教授 / アジア総合政策センター協力教員）
- ・ 大杉 卓三（九州大学大学院比較社会文化研究院助教 / アジア総合政策センター協力教員）

#### 概要

タジキスタン共和国は1991年にソビエト連邦から独立、1997年まで内戦を経験し、旧ソ連のなかでも貧しい国の一つである。この講座では、内戦からの復興、新たな世代育成による国づくりに取り組むタジキスタンについて講演が行われた。はじめに、大谷順子氏（九州大学）と大杉卓三氏（九州大学）により九州大学 P&P プロジェクト報告を兼ねて、中央アジアとタジキスタンについて概略を説明した。次に、「NHK プロフェッショナル仕事の流儀『いつも心に青空を ユニセフタジキスタン代表 空尾雪絵』」で放映された番組の一部を上映し、空尾雪絵氏のタジキスタンでの仕事の様子を紹介した。続けて、空尾氏より基調講演「タジキスタンにおける貧困削減戦略とその実施にあたってのチャレンジ」が発表され、国連ミレニアム開発目標（MDGs）の現状、特に子供たちの貧困、栄養失調、乳幼児死亡率、教育の機会などの現状と、これからのチャレンジについて論じられた。次に、日本赤十字社の菊池康子氏は開発援助ワーカーからみたタジキスタンについて講演し、その中で「人間の安全保障」の理念を含むタジキスタンにおける日本 ODA 方針、草の根案件の動向分析、またタジキスタンで活躍する唯一の NGO である認定 NPO 法人「難民を助ける会」の障害者支援などのプロジェクトを紹介した。

参加人数：50名

## 6. 九州大学アジア塾 実施報告

九州大学アジア総合政策センターでは、アジアとの文化・芸術交流、国際開発交流、または貿易やビジネス等、様々な分野でアジアと出会い、交流していく際に必要となる実際の、実用的な知識やノウハウを提供することを目的として「九州大学アジア塾」を開催している。2007年度は以下を開催した。

### 第4回九州大学アジア塾

#### 「どこへ行く日本の食と農— アジアに活路はあるか— 農業白書担当者との対話」

日時：2007年6月15日（金） 14：00～17：00

会場：九州大学国際ホール

#### プログラム

講演：「18年度農業白書に見るグローバル化と日本の食と農」

- ・池淵 雅和（農林水産省大臣官房情報課情報分析室長）
- ・空閑 信憲（同 課長補佐）

コメンテーター

- ・甲斐 諭（九州大学大学院農学研究院教授・アジア総合政策センター複担教員）
- ・坪田 邦夫（九州大学アジア総合政策センター教授）

討論「どこへ行く日本の食と農— アジアに活路はあるか—」

#### 概要

2007年6月15日、農業白書の執筆者による講演と九州大学教員によるコメントを中心に開催。農林水産省大臣官房情報分析室長の池淵雅和氏は「18年度農業白書に見るグローバル化と日本の食と農」と題する講演の中で、グローバル化や貿易自由化の波が日本にも押し寄せており、食料自給率の低下や輸入食品の増大など国内農業や消費者との間で様々な軋轢を生じていること、他方で、成長著しいアジア諸国に対し日本の農産物の輸出の動きが各地で出始めていることなどが紹介された。当センターの坪田教授からは、東、東南アジア諸国への輸出拡大の余地が増大しているとの見解が示され、農学研究院の甲斐教授からは、中国などと結んだ農産物のサプライチェーンができつつあることが指摘された。討論では、閉塞状況にある日本農業がアジアへの輸出に活路を見いださうか、実際の実務に携わる県担当部局や農業関係者から様々な意見が出された。

参加人数：106名

---

## 第5回九州大学アジア塾

### 「ヤオハン中国の成功と失敗から学ぶもの ― オンリーワンをめざして・77歳からの再出発」

日時：2007年10月19日（金）

会場：アクロス福岡7階大会議場

#### プログラム

主催者挨拶

- ・国吉 澄夫（九州大学アジア総合政策センター教授）
- ・永池 克明（久留米大学商学部教授、ICABE九州・中国ビジネス研究会座長）

講演

- ・和田 一夫（元ヤオハングループ会長、和田総研（株）社長）

会場との質疑応答

#### 概要

1997年9月、アジアを中心に世界に展開していたスーパーマーケット「八百伴」（ヤオハン）が2000億円の負債を背負って倒産してから10年が経過したが、そのグループ代表を務めていた和田一夫氏より、自らの過去を振り返り、「失敗から学ぶ」チャレンジ経営哲学を語って頂いた。和田氏は、ヤオハンは「流通業のソニーになる」との思いで、国内での何度かの失敗をバネにアジアを中心に世界に進出した。特に香港や中国進出は大きな成功であった。しかし、その裏で、日本の流通業の大きな構造変化に気づくのが遅くなり、結果日本本社サイドが「粉飾決算」を引き起こし、会社倒産につながった、と過去を率直に反省し、その上で失敗から学ぶことの重要性を強調した。加えて、これからの新しい仕事は「オンリーワン」でなければならないと、上海で「和田経営塾」を起こし人材育成に乗り出し、飯塚に拠点を置いて、IT部門、環境問題、バイオ関連に、77歳からの新たなチャレンジを行っている現在を聴衆に向かって熱く語りかけた。

参加人数：200名

---

## 7. Soaked in Asia (SIA = サイア) 報告 — アジアの心の情報を発信する

芥川賞作家の特任教授高樹のぶ子氏が、文学表現を通じてのアジアとのかかわりを模索する。これまでのフィリピン・ベトナム・台湾編に続いて、2007年度はマレーシア編と上海編を行った。

### — SIA とは —

作家高樹のぶ子がアジアの文学作品を読み、作家と交流し、文字通り「アジアに浸る (soaked)」ことで感じた世界を様々な方法で発信するマルチイベント。アジアに生きるツツウの人々が何を望み、何を愛し憎しみ、何を守りたいと感じているのかを肌で実感できるものの一つに文学がある。文学作品には、知識ではなく感性の深い部分で感じる肌触りや、理屈を超えて実感できる世界がある。文学を芸術や娯楽としてだけでなく、「心の情報」と捉え、アジアの作家との文学を通じたキャッチボールを行う。アジアの今を生きる人々の個の情報が物語として伝えられる時、それを受け止める側はその生を感じ、柔らかな感情を発動させる。高樹のぶ子氏がアジアの作家や作品と出会う中で感じた情報は小説やエッセイに結実する他、以下のようなマルチ型の情報発信が行われる。

### — SIA の情報発信手法 —

#### [Visit SIA]

高樹のぶ子氏の感性に触れた1作家の1作品を選出し、半年に1カ国ずつ取り上げ、その作家や作品を生んだ環境を訪ねる。

#### [新潮 SIA]

アジアの作品と Visit SIA から得た果実を創作として表現し、文芸誌「新潮」にアジアの作品 + 高樹のぶ子作品として2作を同時発表する。

#### [SIA DAY]

アジアの作家の作品と文芸誌「新潮」に掲載された高樹のぶ子氏の作品の朗読、Visit SIA で訪れたアジアの各地の写真とエッセイで構成されたフォトデッセイ、映像とアジアの文学に関するレクチャーや座談会などで構成される市民参加型のイベント。その構成は内容に応じて変更される。

#### [TV SIA]

Visit SIA や SIA Day を含めた SIA のプロセスを30分番組として民放局で放映し、より多くの方々にアジアに浸っていただく。

#### [Web SIA]

高樹のぶ子氏自身が SIA への想いや近況を文字や映像で語ると共に、TV SIA で放映したものをインターネット向けブロードバンド映像として再編集した動画の無料配信を行う。

<http://blog.goo.ne.jp/websia>

### 第4回 SIA DAY 「高樹のぶ子と浸るマレーシア！」

2007年9月22日(土) アクロス福岡・円形ホール

「多民族 モザイクの輝き」をテーマに、マレー系・中国系・インド系の住民が交わらずにモザイクのように混在するマレーシアの社会や宗教についてのレクチャー、マレーシアの華人作家であるリー・テンボ氏が中国系マレー人女性の半生を描いた小説『写真の中の人』やそれに呼応して高樹のぶ子氏の短編小説『どしやぶり麻玲』の朗読、マラッカの夕日やセランゴールの蛍の光が投げかける熱帯の

---

幻影のフォトデッセイなどが主な内容であった。休憩時間には「おやつ SIA」が行われ、マレーシアのお菓子やミルクティーが振る舞われた。また、今回から SIA が大学院の共通教育科目の単位として認定されるようになった。異なる学部から集まった受講生は、SIA DAY に聴衆として参加した後、高樹のぶ子氏を囲んでの直接対話を行われた。熱帯アジアの気候と国民性、モザイク国家の行方、文学が伝えるものなどについて、高樹のぶ子氏と学生の活発な議論が交わされた。(参加人数170名)

#### 第5回 SIA DAY 「高樹のぶ子と浸る上海！」

2008年3月22日(土) アクロス福岡・円形ホール

新天地のカフェをイメージした会場は一般参加者と学生約170名で満員となった。今回は「生きることは食べること — 急成長する上海パワー —」をテーマに、上海の食文化などについてのレクチャー、現地の作家 パン・シャンリー氏による美しくも冷たい光を放つ女性を描いた短編小説『謝秋娘よ、いつまでも』やそれに呼応して書かれた高樹のぶ子氏の短編小説『投』の朗読、上海で感じたことを写真と言葉によって表現したフォトデッセイ3篇が紹介された。休憩時間には「おやつ SIA」として、芝麻球(ごま団子)や芝麻交切片(ごまのおこし)などが振る舞われた。また、SIA-DAY 終了後には、前回からスタートした大学院共通教育科目があり、大学院生との活発な討議が行われた。

参加者のアンケートには「上海という都市を女性、食の切口からとらえて、その全体像に迫ったことに感動した」、「初めての参加だったが、知的自由空間がとても心地よかった」、「高樹先生の話はとても楽しく、また、考えさせられることが多く、女性としてたくましくしなやかに生きていきたいという思いと、上海に一度是非行ってみたいと思うようになりました」などの感想が寄せられた。

(参加人数170名)

## 8. 2007年度 九大アジア叢書発行

アジア総合政策センターでは、九州大学におけるアジア研究の成果を幅広い読者層に判りやすく公開することを目的に「九大アジア叢書」を刊行しており、2007年度は以下の2冊を刊行した。

番号	タイトル	執筆者
10	グローバル経営の新潮流とアジア — 新しいビジネス戦略の構造	永池克明 (久留米大学商学部兼大学院ビジネス研究科・教授)
11	モノから見た海域アジア史 — モンゴル～宋元時代のアジアと日本の交流 —	四日市康博 (九州大学大学院人文科学研究院・講師) 編著

第8巻『国際保健政策からみた中国 — 政策実施の現場から』(大谷順子 現・大阪大学大学院人間科学研究科 准教授著) が中国語に翻訳され、2009年2月に『通过国际卫生政策看中国 来自政策实施第一现场的报告』と題して中国世紀出版集团有限公司中国社科文献出版社(北京・香港)より出版されました。

\* 叢書は市販もされています。購入希望の方は下記へお問い合わせ下さい。

### 九州大学出版会

〒812 0053 福岡市東区箱崎7 - 1 - 146  
TEL: 092 641 0515

## 9. 2007年度 アジア総合政策センター 共催・後援およびアジアとの交流支援事業 採択一覧

九州大学が掲げる「アジアに開かれた大学」をさらに推進するため、本学教員又は学生が主体となって実施するアジアに関する催事のうち、当センターが共催あるいは後援するものについて、広告物の制作費用等の補助、あるいは当センターホームページやメールマガジン等を通じての広報等の支援を行っています。(申請3件、採択3件)

番号	申請者			催事名	AC支援
	氏名	所属	職名		
1	緒方 一夫	熱帯農学研究センター	教授	東南アジア及び東アジアにおける土地利用の持続性と多面的機能	共催、 広告物補助
2	加末 恒壽	医学部保健学科	教授	第2回九州大学保健学国際フォーラム	後援、広報、 広告物補助
3	清水 周次	九州大学病院	准教授	アジア遠隔医療シンポジウム	後援、広報 広告物補助